

江戸時代の中央区のすがた

江戸時代の地図を見てみよう。前のページにある現在の地図と比べてみると、どこがちがうだろうか。

右の地図は、江戸時代の後期1843（天保14）年に出された「御江戸大絵図」だ。地図をよく見ると、町名や人名らしい文字が書かれている。江戸時代の町なみはどんなようすだったのだろうか。



地図を見る前に
ちょっと読んで！

江戸時代がわかることから・用語

- 豊臣秀吉**に関東移転を命じられ、1590（天正18）年、徳川家康が江戸城に入ったことを「入城」という。徳川家康は、ここを拠点に政治を行った（→p.16）。
- 上方** 京都や大坂などの関西のこと。
- 堀割** 地面を掘ってつくった水路。
- 大店** 大きな商店のこと。
- 廻船** 港から港へ荷物を運んで回る船（→p.38）。
- 町屋** 商人や職人などの町人が住む一帯。
- 下りもの** 上方から江戸に運ばれた高級品（→p.39）。
- 江戸時代**は、身分によって住むところが決められていた（→p.22）。「〇〇ちょう」と読むところは、おもに町人が住んでいた。
- 地金** 金貨や銀貨など、貨幣の材料になった金属のこと。
- 朝廷** 天皇が政治を行うところ。
- 旅籠** 食事つきの宿屋。
- 五街道** 日本橋を起点とした5つの街道のこと。東海道、中山道、日光街道、奥州街道、甲州街道（→p.25）。
- 老舗** 代々続いて同じ商売をしている、由しよある店。
- 河岸** 川沿いにあり、船からの荷物をあげ下ろしする場所であり、そのまま市場や倉庫となつたところもある（→p.39）。
- 火除地** 江戸時代は火事が多かったため、防火対策用につくられた空き地。
- 江戸に勤務する武士**は、全国から集められた（→p.19）。

